

幸堂得知 きんどう 劇評家、小説家。天保十四年一月江戸生れ、大正二年二月、千二百歳（二八四一―一九三）。舊姓加島、本名鈴木利共衛、幼名注吉、平共衛、利平。別號劇神仙、東歸坊、止五齋、白共衛、竹鷺居、竹鷺居主人、鈴木得知、露の四郎共衛等。明治二年三井兩着活小入り、のち大番頭鈴木利平の養子となる。改組小よりの三井銀行員となり、京都、青森の支店長を歴任し、二十一年退職。二十四年東京朝日新聞に入社。この間『歌無法新報』の編輯に參與。

著書『輕口雜談春のやまゝ』（明治二十二年十一月一日春陽堂）、『大通世界』（標註、壹號。明治二十四年五月二十五日、貳號。七月二十一日、三號。十一月十七日春陽堂）、南朝『述田子待』（東歸坊名、補綴、明治二十六年一月）『博文館少年文學』、『剛膽義婦』（明治二十七年一月七日三友舎）、『幸堂滑稽談』（明治二十九年一月十日博文館）、『天製絲瓜の水』（明治三十年二月二十五日博文館）

『袖珍小説』、『略青春六れ』（合著、明治三十四年一月）『十九日春陽堂』、『略解時代狂可選』（明治四十年四月二十八日博文館）、『通陽堂』、『略名演藝心かへ帳』

の語』（合著、明治四十年九月）『千二百歳文館』、『略名演藝心かへ帳』（合著・熊谷爲麿編、明治四十二年七月）『千二百歳雲堂書店』、『略趣味大江戸』（合著・江戸研究会編、大正二年十月）『千四百大屋書房』等。

研究